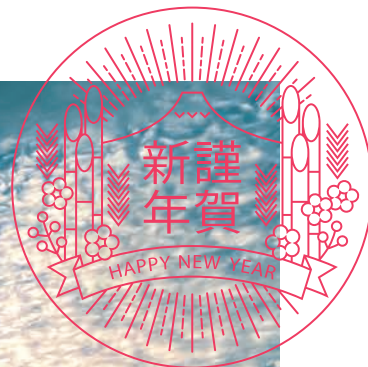


ichien



# いちえん



君を映す鏡の中  
 君を誉める歌はなくても  
 僕は誉める君の知らぬ  
 君についていくつでも

2022年9月25日長野県しんゆの夕焼け

瞬きひとつのあいだの一生  
 僕たちはみんな一瞬の星  
 瞬きもせずに 息をすることさえ  
 惜しむかのように求めあう  
 ああ君は何時ここから消えるの  
 ああ 君は何時 僕をおいて去ってしまうの  
 僕をおいて何処へゆくのか  
 君を映す鏡の中 君を誉める歌はなくても  
 僕は誉める 君の知らぬ君についていくつでも  
 あのささやかな人生を良くは言わぬ人もあるだろう  
 あのささやかな人生を無駄となる人もあるだろう  
 でも僕は誉める 君の知らぬ君についていくつでも  
 瞬きひとつのあいだの一生  
 僕たちはみんな一瞬の星  
 瞬きもせずに 息をすることさえ  
 惜しむかのように求めあう  
 ああ人は獣 牙も毒も棘もなく  
 ただ痛むための 涙だけを持って生まれた  
 裸すぎる獣たちだ  
 触れようとされるだけで痛む人は火傷してるから  
 通り過ぎる街の中でそんな人を見かけないか  
 あのささやかな人生はもしかしたら僕に似ている  
 あのささやかな人生はもしかしたら君だったのか  
 通り過ぎる街の中でそんな人を見かけないか  
 瞬きひとつのあいだの一生  
 僕たちはみんな一瞬の星  
 瞬きもせずに 息をすることさえ  
 惜しむかのように求めあう  
 ああ人は獣 牙も毒も棘もなく  
 ただ痛むための 涙だけを持って生まれた  
 裸すぎる獣たちだから  
 僕は誉める 君の知らぬ君についていくつでも  
 瞬きひとつのあいだの一生  
 僕たちはみんな一瞬の星  
 瞬きもせずに 息をすることさえ  
 惜しむかのように求めあう

# 過去を振り返り 未来に思いを



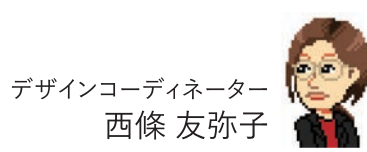
## 本年もどうぞよろしくお願い致します

あけましておめでとうございます。年末年始は故郷の青森に帰省しておりました。息子は大好きな新幹線「はやぶさ」に乗って大はしゃぎでした。また、亡き父の遺影に線香をあげて来ました。過去を振り返り、未来に思いをはせました。本年もよろしくお願いいたします。

## 亡き父をふりかえる 2

父の遺影に再会した。歳を重ねるにつれ、希薄になっていた父の存在が父の死を堺に濃度を増してきている。きっかけは前述の妻の元上司で恩人の河原井さん。故郷青森から遠く離れた茨城の地で父を知る人と出会いご縁が繋がった。2022年秋ごろ河原井さんが父の墓参りをしたいと連絡をくれて、青森の父方叔父宅に急遽連絡をとった。叔父さんと奥様が快く繋いでくださった。年末年始の帰省で私もようやく伺った。父の遺影とは亡くなった年に一度線香をあげたきりで10年ぶりの再会だった。父の死に目に会ったわけでも無く、死後、帰省のたびに線香をあげに行ったわけでもない。正直自分事で忙しく、父のことを考える余裕はなかったが、息子が出来、生活のさまざまな場面で父の事を考えるタイミングがあった。公園で遊んだこと、おもちゃ屋に行ったこと、食事に行ったこと。一緒に風呂に入り、一緒に布団で眠りについたこと。おぼろげな記憶をたどり一つ一つ、父はどうやっていたのか、どんな気持ちだったのか考える。40年程前、個人で学習塾を開いたが精神を病み、経済的に苦しかったであろう父はきっと男として父としての矜持をみせられず苦しかったのではないかと思う。今のように男が子どもの面倒をみたり家事への参画が当たり前前の時代であったら父の生き方は違ったのかもしれない。だれかと比べなくてもいい。海原に飛び出せずとも、海を染める空の青さを知り適当に幸せになればよかったのに。勿論そうしなかった男理屈もあるだろうが。私は「瞬きもせず」という詩が好きなのだが、この詩を聞くと自然と胸を締め付けられる。父の命は消えても残像としてかすかに光をたたえている。

# 一年が 経ちました。



## 新年のご挨拶

本格的に一円のチームに加わり1年が経ちました。仲間や多くの方に大変お世話になりました。2023年どうぞよろしくお願いいたします。

## 2022年とこれまでを思いかえして

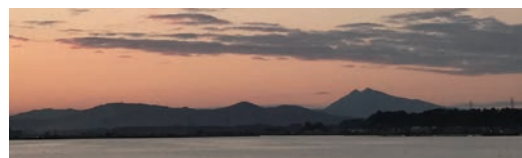
2022年は環境の変化がありました。そのうちの一つは個人的な話ですが引っ越しです。社会人になってから長らく石岡～小美玉～行方あたりを生活圏にしていたのですが、秋に、筑波大学に通っていた院生時代以来、14年くらいぶりにつくばへ戻ってきました。平野にぼこんと見える筑波山の形や距離感が違うなあと車を走らせるたびに思います。

ちょっと話がそれますが、筑波山はすっかり私のソウルマウンテンになりました(登っているわけではありませんが...)。社会人1年目、地域に馴染もうと参加し始めたまちづくりNPO活動は、霞ヶ浦沿いをメインフィールドにしていた、その向こうには筑波山が見えるのでした。朝の霞ヶ浦清掃活動を2016年頃から始めてからは、ほぼ毎週～月2回くらい、霞ヶ浦と筑波山を見続けてきました。筑波山の形は特徴的で、見る位置で割と印象が変わるのですが、14年間見てきた筑波山の形が今の住まいからだとは違って見えるので、同じ県なのに全く違う土地に来たような感じです。

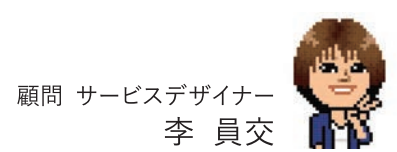
話を2022年のことに戻して...1年ほど前から本格的に一円メンバーの一員として動き始めました。一円の坂本さんは私が最初に勤めたデザイン事務所の先輩、李さんはその次に勤めた空のえきのチーム長。そして、お二人とは職場だけでなく、地域貢献活動や勉強会など共通の場でも意気投合し、今こうしてともに仕事をさせていただき形になりました。

また、今までの職場やクライアントさん、大学や職場でお世話になった先輩後輩仲間同僚の方との繋がりにも助けられ、その大切さを実感した1年。感謝の念に堪えません。

何度も見た筑波山に思いを馳せつつ、気持ちを新たにしていきたいと思います。



# 40代からの 再チャレンジ!!



## 2022年、変革に挑む年でした!

プロフェッショナルとしても、人間としても、一層高い境地へ向かうために、着実に行動していた1年ではなかったかなと思います。

日々の息子の成長を見届けながら、「成長し続けるママでありたい」と思うようになりました。ふと思ったのは、20代～30代に描いた未来が今現実になっており、今描く未来もいつかは現実になるということ。

今をどう生きるかが重要だと考え、去年の夏からキャリアアップのための転職活動を開始。デザイン思考を基盤とする、デザインコンサルティングの領域へ進むことができました。

## 今までありがとうございました!

2014年から一円に加わりおよそ8年間、様々なご縁に恵まれながら、「まちづくりxデザイン」「経営xデザイン」等の切り口で、様々な活動やお仕事をさせていただくことができました。まずは感謝を申し上げたいと思います。少しずつでも前に進むことができたのは、一円や皆さんのおかげだと思っています。もっと自分の貢献度合いを高めていきます!



## これからもよろしくお願いいたします!

新しい自分の所属先は、NTT DATA(2022年12月入社)という売上2兆円規模のシステム開発系の会社ですが、そこでサービスデザイナーとしてUXを中心としたデザイン設計、サービス開発に携わっております。

ここに変わった理由は、社会インフラを作ってきた会社であることから、我々の未来の都市(通称、スマートシティ)関連プロジェクトに関わるチャンスが大いにあるということでした。技術先行より、まずは「人間に優しいデザイン」が必要だと思っているのは、留学のときからちっとも変わってません。自分の息子たちが住む未来と考えると、よりよくしていきたいと使命感を感じます。まだまだわからない部分は多いですが、一円とも、茨城のデザインの仲間たちとも連携しながら、社会のためのデザインを一層強化していこうと思います。

